

地球環境基金助成「平成24年度 VERSTA ジュサラ椰子 AF プロジェクト形成事業」
現地共同プロジェクト会議派遣報告書

1. 派遣日程：平成24年7月6日（金）～7月17日（火）

2. 派遣委員：山田祐彰委員（VERSTA 顧問・東京農工大学大学院農学府講師）、小野瀬由一委員（VERSTA 専務理事・ICG 登録国際コンサルタント）

3. 派遣記録：

- 1) 7月6日（金）22:00 発成田空港第2ターミナル EK319 便でドバイ経由にてブラジルに向かう
- 2) 7月7日（土）16:30 ブラジル国サンパウロ市グアルーリョス国際空港到着【Mercure Sao Paulo Pamplona 泊】
- 3) 7月8日（日）10:00～12:00 ホテルラウンジにてプロジェクト事業準備ミーティング（出席：山田祐彰、小野瀬由一、Guenji Yamazoe、Noriko Tanaka）【Mercure Sao Paulo Pamplona 泊】
- 4) 7月9日（月）7:30 ホテル発、14:00 グアピルブ村農業組合農家意見交換及び Gilberto Ohta AF 農場視察（参加者：小野瀬由一、山田祐彰、Shiho Tanaka 〈ニッケイ新聞記者〉、Guenji Yamazoe、Isidoro Yamanaka、Noriko Tanaka、Gilberto Ohta、Laura Becker、Geraldo Francisco de Aguiar、グアピルブ村農業組合メンバーほか）【レジストロ Lito Palace Hotel 泊】

意見交換では、グアピルブ村農業組合参加農家自己紹介及び小野瀬が VERSTA 活動紹介を行った。

Gilberto Ohta 氏の説明によると、グアピルブ村農業組合の組織化は1996年から始まり、現在の組合員は3法人及び150家族（500人）である。若者クラブが法人化しエコロジー活動を展開している。150家族の内土地農家は10～15%である。主要作物は生姜で年間2,000トン生産し90%を英国へ輸出している。



P1. グアピルブ村農業組合集会場



P2. グアピルブ村農家意見交換①



P3. グアピルブ村農家意見交換②



P4. Gilberto Ohta AF 農場①



P5. Gilberto Ohta AF 農場②



P6. Gilberto Ohta AF 農場③

5) 7月10日（火）7:30 ホテル発、10:00～11:00 リオプレット村農民意見交換及び 11:00～12:00 ジュサラ椰子

及びコーヒー記念植樹（参加者：小野瀬由一、山田祐彰、Shiho Tanaka〈ニッケイ新聞記者〉、Guenji Yamazoe、Isidoro Yamanaka、Noriko Tanaka、Cristina de Marco Santiago、José Luiz Camargo Maia、Fernando Silveira Franco、Gilberto Ohta、Laura Becker、Geraldo Francisco de Aguiar、Olympio Rosa da Silva ほか）、12:30～13:00 ジュサラ椰子育苗圃場見学、14:00～15:00 セッテバーラス市長 Nilce Ayako Miyashita による歓迎昼食会、16:00～16:30 セッテバーラス市日本人会表敬訪問【レジストロ Lito Palace Hotel 泊】

Geraldo 氏はリオプレット村では手工芸PJとアグロフォレストリーPJを開始したと挨拶があった。Olympio 氏は森林維持は子供達の将来につながるの重要であると挨拶があった。小野瀬は、VERSTA 支援活動は地球環境基金助成により今年から本格化すると挨拶があった。その他参加者各自による挨拶があった。



P7. リオプレット村農家意見交換①



P8. リオプレット村農家意見交換②



P9. リオプレット村農家と記念写真



P10. リオプレット村 VERSTA 歓迎



P11. ジュサラ椰子記念植樹



P12. ジュサラ椰子植樹と感謝横断幕



P13. ジュサラ椰子育苗圃場予定場所①



P14. ジュサラ椰子育苗圃場予定場所②



P15. Miyashita 市長による歓迎昼食会

6) 7月11日(水) 7:30 ホテル発、9:30～15:00 セッテバーラス市農務局会議室にて共同プロジェクト会議(参加者:【日本側】山田祐彰、小野瀬由一、【ブラジル側】Guenji Yamazoe、Noriko Tanaka(農拓協嘱託研究員)、Gilberto Ohta(セッテバーラス市農政部長)、Cristina de Marco Santiago(サンパウロ州環境局森林院研究員)、Fernando Silveira Franco(サンカルロス連邦大学農学科教授)、Luiz Carlos Fazuoli(サンパウロ州農務局カンピーナス農事試験場研究員)、Masako Toma Braghine(サンパウロ州農務局カンピーナス農事試験場研究員)、Laura Becker(サンパウロ州農務局農業普及員)、Olympio Rosa da Silva(リオプレット集落共同推進協会)

長)、Sonia Marilza da Silva (同協会秘書)、Geraldo Francisco de Aguiar (同協会メンバー)、Noriko Tanaka (農拓協嘱託研究員)、Isidoro Yamanaka (元ブラジル国農務大臣特別補佐官)、Wilian Daniel Marfins (グアピルブ集落農協組合作業コーディネータ)、Oscar Francisco Neto (セッテバーラス市小農農協組合長)、Nilce Ayako Miyashita (セッテバーラス市長)、Roseli de Somya Muniz (グアピルブ集落農民代表)、Sandra Mario Silva de Aguiar (リオプレット集落農民代表) ほか)、17:00~18:00 レジストロ日本人会表敬訪問後サンパウロ市へ戻る。

【Mercure Sao Paulo Pamplona 泊】

(1) 会議経過

- ・セッテバーラス市農務局長官 Gilberto Ohta 氏は、開会の挨拶をし、現市役所政権による小農家の成功例をあげ、協会及び農協による小農家達の協力と自立運動について述べた。
- ・Nilce Ayako Miyashita 市長は VERSTA の市に対する重要性について述べた。また日本とブラジルとの関係及び日本移民のリベイラ流域及びセッテバーラス市に対する日本移民の貢献について述べた。またセッテバーラスのエコリズムへの適応性を述べ、環境保全の重要性について述べた。
- ・Guenji Yamazoe 氏と小野瀬が SAF・VERSTA のプロジェクトについて発表し、それによってセッテバーラス市、特にリオプレット村における貢献を述べた。
- ・Fernando Silveira Franco 教授 (サンカルロス連邦大学農学部) と山田祐彰講師がサンパウロ州及びアマゾンで実施されている SAF システムを紹介し、リオプレットコミュニティに対して SAF システムの導入及びメンテナンスに対する支援を行うことを述べた。また同教授は、サンカルロス連邦大学ソロカバ校では、農村部の青年に対して指導しているのでリオプレットコミュニティの青年も支援したいと述べた。
- ・Luiz Carlos Fazuoli 氏及び Masako Toma Braghine 氏 (サンパウロ州農務局カンピーナス IAC コーヒー研究者) 及び Laura Becker (サンパウロ州農務局ミラカツ市農業技術普及員) 等がリベイラ流域、特にセッテバーラスにあうコーヒーの品種の研究について述べた。彼らは特にこの地方にあった品種はコニユロン種が有望だが今のところ特定できてないと述べた。研究は続ける必要があり、このプロジェクトによってリベイラ流域のコーヒー研究にも貢献できるだろうと述べた。また、彼らはリベイラ流域では雨が多く、収穫後の乾燥機が必要になると述べた。
- ・Isidoro Yamanaka 氏は、日本はブラジルから 160 万俵のアラビカ種混合コーヒーを輸入しており、リオプレットのコーヒー AF により付加価値を付けることを期待したいと述べた。
- ・最後に、リオプレット及びグアピルブの婦人たちが昼食やジュサラジュースなどを用意して会食した。

(2) 協議結果

- ・プロジェクトにはビジネスプランが足りない。SAF・VERSTA によってどのような収入と持続的開発があるのかが示されていない。
- ・SAF・VERSTA には 2 つのグループができる。1 つはコーヒーとの SAF、もう一つはコーヒーを含まない SAF である。コーヒーを含む SAF・Versta は、慎重に実施する必要があり、参加者は約 10 名に限る。VERSTA は、苗木、土壌分析をこのプロジェクトに参加する 5 つの農家に与える。残りの農家の費用は自己負担。
- ・コーヒーを含まない SAF には、参加者に制限はない。参加者は、農業技術情報のみが与えられ、他の費用は自己負担である。
- ・研究者と普及員はすべての技術指導及び苗木の価格、栽培指導、病虫害の指導を行う。
- ・2012 年の 8 月 25 日、26 日にプロジェクト参加農家に対しワークショップを実施する。
- ・Geraldo Francisco de Aguiar 氏と Olympio Rosa da Silva 氏が参加者と事前会議を行って、SAF 導入のための土地のデータを登録する。

- ・農村開発局及びサンカルロス大学の Fernando Silveira Franco 教授が必要なデータについての技術指導を行う。
- ・Isidoro Yamanaka 氏は、SAF システムに竹を含めることを提言して、竹による炭をつくりその灰によって酸性土壌を改良することや竹の工芸品（竹の柱）などを作って収入向上を図ることを提言した。



P16. Miyashita 市長による講義



P17. Guenji Yamazoe 氏による講義



P18. 山田祐彰氏による講義



P19. Gilberto Ohta 氏による講義



P20. Luiz Fazuoli 氏による講義



P21. Fernando Franco 氏による講義

7) 7月12日(木) 8:30 ホテル発、9:30 サンパウロ州環境局森林院表敬訪問+意見交換会(参加者:【日本側】山田祐彰、小野瀬由一、【ブラジル側】Guenji Yamazoe〈元森林院総裁〉、Eduardo Luiz Lonbui〈森林院副総裁〉、Luis Alberto Bucci〈森林院コーディネータ〉、Noriko Tanaka ほか)【Mercure Sao Paulo Pamplona 泊】Guenji Yamazoe 氏からリオプレット村の SAF の概要について、山田祐彰講師からアマゾンの SAF の概要についてプレゼンがあった。

小野瀬からジュサラ椰子は血液抗酸化作用がブラジル果実の中で最も高いと米国化学研究雑誌の報告があり、VERSTA は高齢社会に突入した日本及びアジア諸国に向けたアンチエイジング・サプリメント原材料としてのマーケティング支援を行う計画であるとの説明があった。また、日本の経済産業省高官から弦楽器の絃材料であるバウ・ブラジルが激減しているため AF の主樹として導入してほしいとの要望があるとの説明があった。

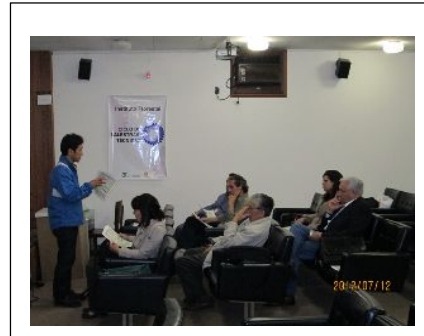
Eduardo Luiz Lonbui 副総裁はこれらの説明に高い興味を示し、特にバウ・ブラジルについては専門家であり協力したい旨発言があった。



P22. Eduardo Lonbui 副総裁との会談



P23. Guenji Yamazoe 氏の説明



P24. 小野瀬由一の説明

8) 7月13日(金) 10:00 ホテル発、11:00～14:00JBC 東海林社長会談、15:00～16:00TV-BAND 社長秘書 Neusa Kakinoki 氏及び Terra Viva チャンネル責任者 Lilian de Souza Munhoz 氏会談【Mercure Sao Paulo Pamplona 泊】

JBC 東海林社長は VERSTA によるリオプレット村ジュサラ椰子 AF 支援に対しては大きな関心は示さなかった。

一方、TV-BAND 社長秘書 Neusa Kakinoki 氏及び Terra Viva チャンネル責任者 Lilian de Souza Munhoz 氏は VERSTA によるリオプレット村ジュサラ椰子 AF 支援に対し大きな関心を示し、同社の農業専門チャンネルである Terra Viva における放送支援の表明があった。



P25. JBC 東海林社長と面談



P26. TV-BAND Kakinoki 氏 & Munhoz 氏と面談



P27. TV-BAND

9) 7月14日(土) 9:00 ホテル発、10:00～15:00 日本まつり会場視察(参加者: 山田祐彰、小野瀬由一、Guenji Yamazoe、Noriko Tanaka ほか)【Mercure Sao Paulo Pamplona 泊】

今回のサンパウロ「日本まつり」は第15回目で、会期は7月13日(金)～15日(日)の3日間で20万人来場者を予定する世界最大の Japan Festival という。会場ブースは約300で日本企業及び日系ブラジル人の出身県が出展していた。

JICA ブースではブラジル事業所遠藤浩明次長と会談し、VERSTA のリオプレット村ジュサラ椰子 AF 支援への協力を求めたところ、AF は JICA ブラジルとしても推進しており、今後の協力を表明していただいた。



P28. 第15回日本まつり会場



P29. JICA ブース



P30. JICA ブラジル遠藤次長と面談

10) 7月15日(日) 18:00～19:00 現地共同プロジェクト会議派遣総括会議(出席者: 山田祐彰、小野瀬由一、Guenji Yamazoe、Noriko Tanaka)

(1) セッテバーラス市ジュサラ椰子 AF プロジェクトのフォローアップ会議について

- ・10日以内に農家調査を行う
- ・8月上旬に協議を行い、8月下旬にワークショップを行う
- ・8月30日に鹿児島大学がセッテバーラス市を訪問する際に同行を予定している

(2) セッテバーラス市水資源基金について

- ・今年度は基金残があるため当 PJ への手当を目指す

(3) ブランコ・ペレスの協力について

- ・小野瀬から TV-BAND の放送協力を得たので積極参加の依頼メールを Rodorigo 社長宛て出したと報告あり
- ・山田講師からセッテバーラス市ジュサラ椰子 AF はグアピルブ村を軸にしてリオプレット村を引っ張る展開が望ましいと発言があった。グアピルブ村とリオプレット村が連携してやるとポスターにもあったので、Geraldo Francisco de Aguiar 氏を中心に推進体制を固めてほしい旨要請があり
- ・山田講師から日本大学三島校国際開発学部福井千鶴子先生が協力意向を示しているのので、セッテバーラス市ジュサラ椰子 AF と連携してお菓子作りの支援を計画したい旨表明があり

(4) マタ・アトランチカの未商品化果実について

- ・山田講師から 10 月にマタ・アトランチカの未商品化果実研修が予定されており、その際日本大学福井千鶴子先生との連携を計画したい旨表明があり

11) 7月16日(月) 1:25 ブラジル国サンパウロ市グアルーリョス国際空港第2ターミナル EK262 便でドバイ経由にて日本へ帰る

12) 7月17日(火) 17:35 成田空港第2ターミナル到着

以上
(報告) NPO 法人 VERSTA
専務理事 小野瀬由一